

# 建学の由来と理念

日本は明治維新後、西洋文明を積極的に受容し、社会の近代化を急速に推進してきました。このため社会はおおいに伸張を遂げましたが、あまりに急激な近代化であったため、伝統文化を破壊し、軽視する風潮さえ生じました。日露戦争後には、国内問題が悪化し国民意識が変化するなかで、さまざまな社会問題が発生し、深刻な社会不安が引き起こされました。

このような当時の社会状況を憂い、柴田徳次郎ら有志は、日本の「革新」をはからんと、「社会改良」と「青年指導」を目的として1913(大正2)年「青年大民団」を組織し、1917年、「活学を講ず」の宣言とともに、私塾「国士館」を創立するに至りました。

創立者たちのねらいは、吉田松陰の精神を範とし、教学の適地として世田谷の松陰神社隣接地に学舎を建設し、「国士館設立趣旨」でうたわれているように、日々の「実践」のなかから心身の鍛錬と人格の陶冶をはかり、国家社会に貢献する智力と胆力を備えた人材「国士」を養成することにありました。

以来、「国士」養成を理念として、学ぶ者みずからが不断の「読書・体験・反省」の三綱領を実践しつつ、「誠意・勤労・見識・気魄」の四徳目を涵養することを教育理念に掲げ、さまざまな分野で活躍する人材を世に輩出してきました。

今日、国士館は、このような建学の志を大切に継承しながら、新たに発展を遂げた研究教育の諸領域でも、知識と実践の水準を高めつつ、世界の平和と進運を目指し、現代社会に積極的に貢献する真摯な努力を続けています。

## 建学の精神

「物質文明」を統御する「精神教育」を重視し、「心身の修練」と「知徳の精進向上」を目指し、国家社会の将来を思い、世界の平和と国家社会の改革向上に貢献する人材、即ち「国を思い、世のため、人のために尽くせる人材『国士』の養成」を目指す。

## 教育理念

「国士」養成のため、四徳目「誠意・勤労・見識・気魄」を兼ね備える教育を行う。

「誠意」とは、真心と慈悲の心で、世のため、人のために尽くすこと  
「勤労」とは、向上心を持って、誠実に仕事をする事  
「見識」とは、道理のもと、物事を見抜く力をもつこと  
「気魄」とは、信念と責任を持って強い心でやり通す力のこと

## 教育指針

四徳目を備えるには、不断の「読書・体験・反省」を実践し「思索」すること。

「読書」とは、善き書物に学び、世の中や自然界の真を理解すること  
「体験」とは、智恵を持って善悪を判断し、善なる判断を実行すること  
「反省」とは、何事も行った後、その行為を省みること  
「思索」とは、省みた内容を検討し、次なる目標を立案すること

# CONTENTS

## 目次

- 02 理事長挨拶
- 03 トピックス
- 04 学長挨拶
- 05 館歌・学園章
- 06 校長挨拶
- 07 国士館大講堂
- 08 データファイル 2018
  - 08 学生数
  - 10 国際交流
  - 11 就職状況
  - 12 卒業生数 / 財務状況
- 14 組織
- 17 環境
  - 17 世田谷キャンパス
  - 18 町田キャンパス
  - 19 多摩キャンパス
- 20 歴史
  - 20 年表
  - 22 設置学校の変遷
- 24 アクセス
- 25 お問い合わせ窓口一覧